

あなたの家ではお正月を

「もちなし」など古くから各家庭や

もちの代わりにそばなど

では、もちの代わりに、お正月、何を食べるのでしょいか。「もちなし正月」の家に多く見られるのは、三が日にそばやうどんを食べるといふ家例です。そばやうどんは長く、縁起の良い食物。また、春・夏・秋の年三回、やせた土地でも収穫できる、救荒作物であったからか

もしれません。

そして、そばと並び、もちの代わりにサトイモを食べるといふ家例も少なくありません。サトイモはもともと北関東地方一帯で多く栽培され、かつては重要な基幹食料でもありました。そのほか、赤飯などを炊く家例もあるようです。

松飾りと御年始回り

正月の松飾り用にと、市の南部地域からも赤城山まで、赤松を採りに行った家があるようです。赤松は女松ともいわれ、松ぼっくりがたくさん枝につくので、子宝に恵まれるとの言い伝えがあり、家の繁栄を願って飾ります。

「苦」につながることを避けられ、今でも二十八日か三十日に飾りつけをする家が多いようです。

新年に入って、三が日が過ぎ

た一月四日は、婿の御年始日、嫁の里帰りの日となっている地域が多くありました。夫婦で仲

人や妻の実家など、お世話になっている家へ御年始に行き、年の初めのあいさつをしたのです。

小正月の行事もさまざま

小正月の行事として、どんど焼きが行われている地域が今もまだ多く残っています。場所によつては、どんど焼きとも言いますが、これは門松やだるまなどの正月飾りを焼くお祭りです。



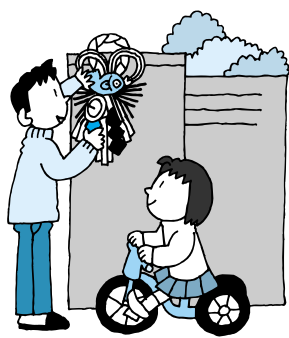
地域によつていろいろ特色があり、ただ燃やすだけでなく、子どもたちが家々を回り、おさい銭やわら、縄、竹などを集めて、自分たちで小屋を作りその中で泊まる地域もあったようです。また、小正月には小豆かゆを

調べてみませんか 前橋の民俗

合併地区も以前から同一の生活圏

今月五日の市町村合併で、前橋市・大胡町・宮城村・粕川村が一つになりました。しかし既に、江戸時代にこれらの地域は前橋藩の領地で、同じ赤城南ろく地域の文化圏・生活圏であったともいえます。時代とともに、失われた風習も多くありますが、お年寄りに聞いてみるなど、調

なお、今回の紙面作りには、都丸十九一著「歳時と信仰の民俗」、市教育委員会発行『前橋市民俗文化財調査報告書』第一〜第四集を参考にしました。これらの資料は市立図書館などで閲覧できます。



参考にした図書